

## 巻頭言

### 現在未来

林 誠太

おりふし、人は「何をなすべきか」を考える事があると思います。恐らくサラリーマンならお定まりの勤務生活様式（パターン）があって、タイムスケジュールに追われる毎日の繰り返しでしょう。カレンダーの日付とJRの時刻表を確かめ、日替りランチの世話になって、と私は30年近い勤務生活を振り返ってみています。

人が本来求めているもの、自分の生き方を模索する心が満たされていないことに、いささかの不満を抱えてきたようです。私が勤めているTV局の中は、二三の部局は別として、総じて外部から大勢の人々が入り出すことで、事業が進行していくところです。

慌ただしく動き回っている人の流れを扱って、色々な作品の素材がどさっと運びこまれ、それと向かい合って奮闘している毎日のなかで、自分は「何をなすべきか」を考え、「人は何をこの世に残すべきか」を思い、自問自答の間を彷徨いてきました。

そんな合間に「人は、夫々の立場で経験を生かし、自から求める心に素直に従って、いのちのエネルギーを完全燃焼することで、自己満足できる活動をすべきだ」という姉の言い分に、かねがね、おっとりとトシをとれと言ってきた手前、何か足りないような、しかし妙な説得力に押されて、「健康文化振興財団」の裏方を勤めることを決心した次第です。浅学非才ではありますが、その運営には、関係機関の御指導を仰ぎ、また関係各位の御協力をお願いして、健康文化振興財団の事業を発展させるために、役に立では幸いと考えています。

(健康文化振興財団副理事長・テレビ東京送出局素材管理部副部長)